

参加なくして未来なし ——日本が生まれ変わるための希望の17条

【ITを駆使した、新しいスタイルの型破りな懇談会を実践】

参加メンバーの多くが20～40代、女性が半数以上。

ほとんどがメンバー間の意見交換。メンバーの提案で運営も進化。ITを駆使して、議論の「見える化」を追求。

【将来世代は、持続的な社会を求めている】

この社会は、今のままで持続可能なのか？ 少子高齢化の加速は、これまでの常識や社会構造に変化を迫る。判断の先送りは、「財政的次世代虐待」とも言うべき状況を引き起こしている。将来世代の話は後回しにされがち。何もしなければ、**未来の選択肢は制約**されかねない。

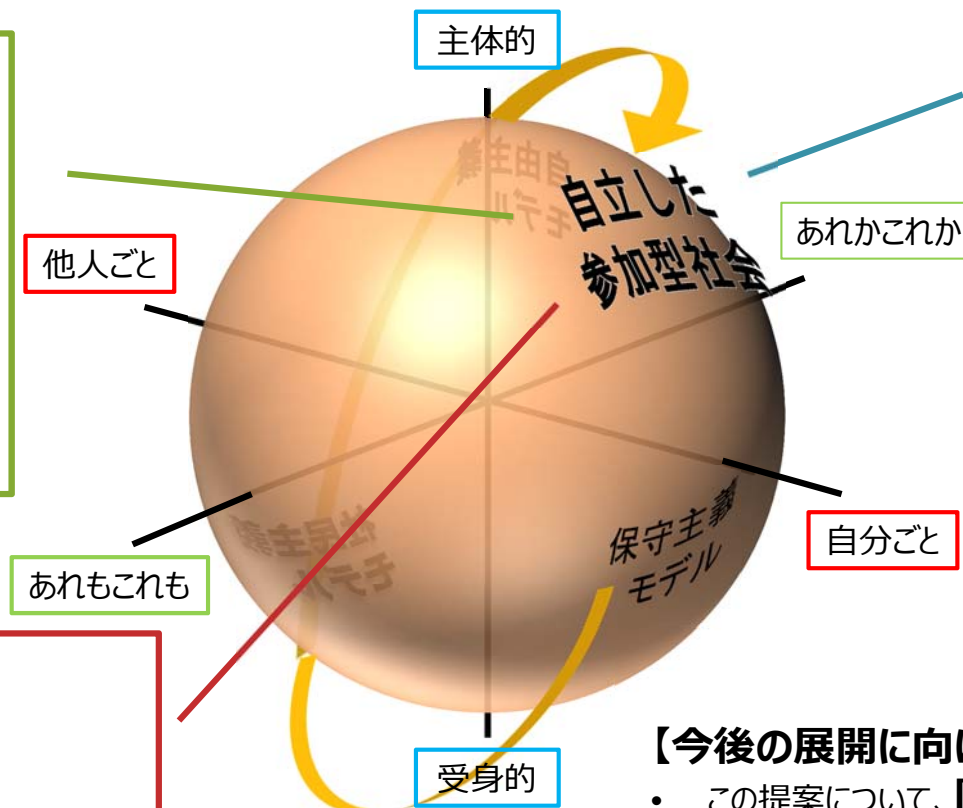
懇談会参加者は、持続的な社会を求める。コミュニティ、アソシエーション、シェアなど、新しいコミュニティの役割の拡大のなかで、国とともに**私たち一人ひとりが社会課題の解決に参加する「自立した参加型の社会」**が新しい国のカタチになる。その時、**国や行政は、新しいイノベーションにどのように取り込むのか？**

政府のあり方（公助の軸）

1. 国にしか担えない領域は何か（あれかこれかの優先順位）
2. 担うべき新たな役割
3. 「組むこと」で課題解決
4. 「永遠のβ版」的発想を導入
5. 開かれたパブリック
6. オープンかつ科学的に政策をデザイン
7. 霞ヶ関にチェンジメーカーを増やそう
8. 加わらない・加われない人々

コミュニティ等のあり方（共助の軸）

12. 社会課題の解決に参加
13. 家族の枠を超えた支え合いの加速
14. 社会の要請と自分たちがやりたいことを重ねる
15. システムやデザインの工夫で社会課題を解決



個人のあり方（自助の軸）

9. 一人ひとりがリスクを自覚
10. 行政が考える機会を奪っていないか
11. 人とつながり「重なる」こと（「ドーナツ型」の発想）

これからの社会のあり方

16. 100年後の未来を一緒に話そう
17. 自立した参加型の社会

【今後の展開に向けて】

- この提案について、**国民的な議論と理解**をどのように求めていくか？
- この提案の考え方を、**どのように具体化**するか？